

白石市架け橋期のカリキュラム全体計画 5歳児4月～8月

目指す子供の姿

- 自分から進んで周囲の事物や他者と関わり様々な経験をする子供
- 友達と共感しながら育ち合う子供
- 様々な環境に関わる中から、豊かな感性が育まれ、いろいろな表現で伝えようとする子供



生活する力の育成 ■「生活をつなぐ」	○幼児期からの遊びや生活経験を基に、これまでのあそびや学びが小学校入学後の学習や生活に生かされるようになる。また、身辺処理も自立に向かってますます意欲になる。
人と関わる力の育成 ■「人をつなぐ」	○多世代の人たちとの触れあいを通して、他者意識が芽生え、より良く関わろうとする意欲が出てくるようになる。また、小学校や児童、教諭の存在を身近に感じるようになる。
学ぶ力の育成 ■「学びをつなぐ」	○交流を通して小学校に対する全体像を感じ、安心感を持つようになる。また、知りたいことや見たいことなど、多くのことに興味・関心を示し、自分で調べたり、周囲の大人に聞いたりするようになる。

月 期		4	5	6	7	8
		5 歳児 1 期		5 歳児 2 期		
ねらい		・様々な遊びを意欲的に行う中で、自信をもって生活する。		・様々な遊びを通して友達と共通の目的をもち、協力して認め合い、達成することの喜びを味わう。		
育 み た い 力	生活をつなぐ	・基本的な生活習慣が身につく、自信をもち、遊びや活動等に意欲的に取り組もうとする ・活動や遊びの中で、最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつ ・身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生命の営みの不思議さや生命の尊さに気づく ・時間を意識して生活してみる。				
	人をつなぐ	・家族や身近な人に親しみ、信頼感をもって生活する ・自分の気持ちや考えを相手に伝え、相手の思っていることに気づく ・自分からあいさつをしたり、感謝やお礼の気持ちを言葉で伝えたりする ・良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動しようとする				
	学びをつなぐ	・身近な環境に親しみ、自然とふれあう中で、様々な事象に興味や関心をもつ ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像したり表現したりする事を楽しむようになる。 ・人の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話したりするようになる。 ・遊びの中での不思議に気づき、聞いたり、調べたり、試したりするようになる				
共 通 し て 取 り 組 み た い 活 動	生活をつなぐ	○自分の身の回りのことは自分でする ・手洗い・うがいをしよう ・歯みがきをしよう ・排泄の仕方を覚えよう ・衣服の着脱をしよう ・服のたたみ方・入れ方を覚えよう ・ロッカーを整理しよう ・箸を正しく使ってみよう ・食事のマナーを覚えよう ・生活リズムを整えよう ○見通しをもって生活をする ・時計を見て時間を意識する ・交通ルールを知る				
	人をつなぐ	○名人さん・名物をさがそう ・散歩に行こう ・見つけたものを話し合おう ・地図を作ろう ・もっと探そう		○地域の人と行ったり来たり ・一緒に遊ぼう		
	学びをつなぐ	○人の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話をしたりする ・必要な会話をしよう ・人の話をよく聞く ・人前で話をしよう ・相談したり話しかけたりする ・絵本、紙芝居、童話、素話を見たり聞いたりする ○種をまこう 育てよう ○探してみよう！遊んでみよう！食べてみよう！ ○水に触れて遊ぼう				
子 供 の 交 流						
環境構成		★援助・配慮 □遊びを継続し、満足感や達成感が得られるように場所や道具などを十分に用意し、遊びの時間を保障する。 □身近な物を分かりやすく整理整頓するスペースを作り、視覚的な掲示物を示す。 ★一緒に生活や遊びの場を考えたり作ったりし、その過程を通し、年長組になった実感がもてるようにする。		□交流の中で遊びの楽しさを工夫したり、お互いのよさを認め合ったりするために、振り返りの時間を設定する。 □時計を見ながら行動できるよう視覚的な工夫を示し、大まかな見通しをもちながら活動できるようにする。 ★一人一人の気づきに共感し、お互いの思いやイメージを出し合いながら遊びを展開できるようにする。また、子ども同士の考えを受け止めて言葉にしたり視覚化したりしながら、考えを引き出し、次の活動へ繋げていく援助をする。		
家庭との連携		・園での様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、保護者の思いを受け止めながら信頼関係を築いていく。 ・年間行事での年長児としての役割を伝え、理解と協力を得る。		・遊びがとても大切でそこから成長していく様子を伝え、温かく見守りながら励ましていくことの重要性を理解してもらう。 ・生活リズムを整えること（早寝・早起き・朝ご飯）、絵本の読み聞かせの大切さやメディアコントロールの必要性を伝え、理解と協力を得る。		
幼保小職員の交流・研修等		◇カリキュラム理解研修会（5歳児担当者・1年生担任） ◇小学校一日体験（各校） 情報交換会（3ブロックごと） ■架け橋運営会議	◇架け橋プログラム理解研修（オンライン）	◇宮城教育大学附属幼稚園視察研修 ■架け橋運営会議	◇保育一日体験（各園） 情報交換会（3ブロックごと） ◇幼保小中合同研修会（実践参観・情報交換） ◇理解研修会（対面）	■架け橋運営会議
月		4	5	6	7	8

白石市架け橋期のカリキュラム全体計画 5歳児9月～3月

生活する力の育成 ■「生活をつなぐ」	○幼児期からの遊びや生活経験を基に、これまでのあそびや学びが小学校入学後の学習や生活に生かされるようになる。また、身辺処理も自立に向かってますます意欲的になる。
人と関わる力の育成 ■「人をつなぐ」	○多世代の人たちとの触れ合いを通して、他者意識が芽生え、より良く関わろうとする意欲が出てくるようになる。また、小学校や児童、教諭の存在を身近に感じるようになる。
学ぶ力の育成 ■「学びをつなぐ」	○交流を通して小学校に対する全体像を五感で感じ、安心感を持つようになる。また、知りたいことや見たいことなど、多くのことに興味・関心を示し、自分で調べたり、周囲の大人に聞いたりするようになる。

月 期		9	10	11	12	1	2	3
		5歳児 3期				5歳児 4期		
ねらい		・様々な活動や体験を通して、友達と協力したり創意工夫したりして遊ぶ中で、思いを伝えるための表現を楽しむ。				・集団生活に必要なルールや約束を守り、就学に期待をもちながら、見通しや目標をもって生活する。		
育みたい力	生活をつなぐ	・公共の場所、共同で利用する場所の使い方がわかり気持ちよく使おうとする ・園生活に必要な約束やルールの大切さに気づき、守ろうとする ・みんなで使うものに愛着をもち、大事にあつかう ・身の回りのことは、自信を持ってする ・時計を見て生活してみる						
	人をつなぐ	・友だちと協力して考えたり、工夫し合ったりして、力を合わせて活動し、達成感や満足感を味わう ・生活や遊びの中で起こるトラブルなどを通して、自分の気持ちや行動に折り合いを付けようと思うようになる。 ・いろいろな友達の存在に気づき、一緒に活動する楽しさをあじわう ・小・中学生、地域の人々、高齢者等、多世代の人々と親しみをもって接する						
	学びをつなぐ	・感じたことや思ったこと、想像したことなどを自分なりの表現を楽しみながら伝え合う（言語、絵画、身体等） ・身近な事物や事象に関わる中で、数や量、形などに関心をもつ ・遊びや生活の中で身近な文字に触れながら、興味や関心を広げる ・経験したことを話し合い、認知を深めさらに興味関心を広げる。						
共通して取り組みたい活動	生活をつなぐ	○自分の身の回りのことは自分でする ・手洗い・うがいしよう ・歯みがきしよう ・排泄の仕方を覚えよう ・衣服の着脱しよう ・服のたたみ方・入れ方を覚えよう ・ロッカーを整理しよう ・箸を正しく使ってみよう ・食事のマナーを覚えよう ・生活リズムを整えよう *年間を通して計画的に取り組む						
	人をつなぐ	○時間を意識して生活する ・遊び、昼食、着替えなどの時間			○時間を見て生活する ・遊びの準備・片付け、昼食の片付けなど			
	学びをつなぐ	○みんなで遊ぼう ・リレーごっこ ・わらべうた	○発表会の準備をしよう ・話し合おう ・必要な物を作ろう	○小学校ってどんなところ ② ・1年生が作ったおもちゃで遊ぼう ・行事に行ってみよう	○小学校ってどんなところ ③ ・学校を見てみよう ・一緒に活動しよう	○地域の方と遊ぼう ・昔遊びを楽しもう	○手紙を書こう	
子どもの交流			秋のおもちゃやさんに招待してもらい一緒に遊ぶ	小学校見学（親子で）5・5交流など		新しい1年生を招待しよう（小学校企画）		
環境構成	★援助・配慮	□自然の変化や美しさ、不思議さを感じることが出来る体験、知的好奇心を満たす遊びや環境を工夫する。 □小学生との交流を通して、就学への期待をふくらませることが出来るように小学校と連携した掲示物を工夫する。 ★行事など共通の目的に向けて試行錯誤しながら実現に向かう場面を大切に、子どもが持ち味を発揮したりお互いのよさを認め合ったりしながら協力し合うことが出来るように見守りながら声掛けをする。				□卒園に向けて、自分や仲間の成長に気付いたり、お世話になった方々への感謝の気持ちをもったり出来るような環境を工夫する。 ★園生活を振り返りながら、年長児としての役割をやり遂げた達成感や喜びを共有し、自信をもって行動できるようにしていく。 ★仲間と一緒に就学することを楽しみにして心身の準備を進めていけるような声掛けを行う。		
家庭との連携		・就学への不安や心配ごとについて傾聴し、安心して就学できるように必要な情報を提供して、相談できる機会をつくる。（個人面談等） ・卒園に向けての生活や就学までに身に付けておきたいことや準備しておくことを周知していく。				・卒園、入学までの関連情報を提供し、見通しをもって準備できるようにしていく。 ・就学に向けて、就寝・起床時刻、食事の時間を振り返り、規則正しい生活を送ることが出来るように協力をお願いする。		
幼保小職員の交流等		■架け橋運営会議	◇小学校一日体験（各校）・情報交換会（3ブロックごと） ◇カリキュラム実践振り返りの会	■架け橋運営会議	◇保育一日体験（各園）・情報交換会（3ブロックごと）	◇カリキュラム実践振り返りの会 ■幼保小引継ぎ会	■架け橋運営会議	
月		9	10	11	12	1	2	3

白石市架け橋期のカリキュラム全体計画 小学校1年生4月～7月

目指す子供の姿

- 自分から進んで周囲の事物や他者と関わり様々な経験をする子供
- 友達と共感しながら育ち合う子供
- 様々な環境に関わる中から、豊かな感性が育まれ、いろいろな表現で伝えようとする子供



「生活をつなぐ」	○幼児期からの遊びや生活経験を基に、これまでの遊びや学びを小学校入学後の学習や生活に生かそうとする。 きまりやマナーを守って安心して生活する力や、自分のことは自分で行おうとしたり、途中であきらめずにやり遂げようとする力を育てていく。
「人をつなぐ」	○多世代の人たちとの触れ合いを通して、人より良く関わろうとする意欲を高めていく。互いの考えを共有し、共通の目的に向けて協力していきようとする力を育てていく。
「学びをつなぐ」	○学びたい気持ちをもって、学習活動に積極的に取り組もうとする力や、表現の仕方の特性に気付き、表現することを楽しもうとする力を育てていく。

月期	4	5	6	7
ねらい	小学校1年生 1期		小学校1年生 2期	
ねらい	・小学校生活に関わる活動を通して、友達や上級生、先生と触れ合い、楽しく安心して遊びや学習をしていこうとする。		・小学校の生活や学習に見通しをもって取り組み、友達と活動する楽しさを知り、意欲的に取り組もうとする。	
育みたい力	生活をつなぐ ・しなければならぬことを自覚し、自分でできることは自分でしようとする ・学校のきまりを知り、それを守って安全に気を付けて生活しようとする ・給食の準備や後片付けの仕方が分かり、決められた時間で食事をしようとする ・時間割等、決められた時間に合わせて行動しようとする		人をつなぐ ・友達のよさに気付き、自分の思いや考えなどを相手に分かるように伝えて遊びに誘う ・自分から進んであいさつをしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする ・先生や上級生と進んで関わろうとする ・幼稚園・保育園で経験したことを話し合い、みんなで楽しく遊ぼうとする	
	学びをつなぐ ・幼稚園・保育園の生活と小学校の共通点や違いを探しながら、自分の思いや考えを表現しようとする ・数について、読み方や書き方、その意味や順序を分かっていく ・幼稚園・保育園で育てた経験を話し合いながら、植物の色や形、大きさなどの特徴に気付き、自分の思いや考えを表現しようとする ・自然の特徴を探したり、感じたことを全体で表現したりしようとする			
生活科を中心とした活動・単元デザイン	どきどきわくわく 1ねんせい ○はじめまして きょうしつ ・教室の使い方を考える ・自己紹介をしよう ・みんなで遊ぼう ○はじめまして ともだち ・遊びで友達と関わろう ・生き物を探そう ・ゲームをしよう ○はじめまして がっこう ・学校を歩いて見つけたものを話し合う ・見つけたものや遊んだことを絵に描こう ■幼児期の教育で使っていた施設との共通点を見付ける 【単元デザイン①】を参照		なつがやってきた 【単元デザイン③】 ○こうていで なつをさがそう ○こうえんで なつをさがそう ○みずで あそぼう ○あめあがりのこうていをたんけんしよう ○なつのことをつたえよう *夏の自然と関わりたいという思いをもち、夏の特徴を探したり、自然遊びを繰り返したりして楽しもうとする 自立心 *幼稚園・保育園で経験したことを話し合い、ルールやマナーを守りながら、みんなで楽しく遊ぼうとする 協働性 *春の様子と比較し、夏の特徴を探したり、感じたことを全体で表現したりしようとする 豊かな感性と表現	
	がっこうだいすき 【単元デザイン①】 ○ともだちと がっこうを たんけんしよう ○がっこうにいるひとと なかよく なろう ○がっこうで みつけたことを つたえよう ○みんなで つうがくろを あるこう *しなければならぬことを自覚し、自分でできることは自分でしようとする 自立心 *友達のよさに気付き、自分の思いや考えなどを相手に分かるように伝えて遊びに誘う 協働性 *幼稚園・保育園の生活と小学校の共通点や違いを探しながら、自分の思いや考えを表現しようとする 豊かな感性と表現		はなをさかせよう 【単元デザイン②】 ○たねをまこう ○はなをそだてよう ○はなのようすをつたえよう *園で植物を育てた経験を話し合いながら、色や形、大きさなどの特徴に気付き、自分の思いや考えを表現しようとする 豊かな感性と表現 ■幼児期の栽培活動を教え合う ■幼児期や日常の経験を思い起こす	
子供の交流等	運動会練習の参観			
環境の構成	□「一日の流れ」や「登校後の準備」など見通しをもって行動できるように視覚的に分かりやすい表示を掲示する。 □絵本のコーナーや自由遊びのスペースをつくり、新しい環境の中でも落ち着いて過ごすことができるようにしたい。 ★園で経験したことを話し、伝え合いながら活動を広げていくようにする。 ★1時間目に音楽を行い、園で歌った歌や手遊びを取り入れ、安心して一日のスタートがきれいにできる。		□言葉による説明だけにならないように配慮する。 □「給食当番」「掃除場所や掃除の手順」など図や写真などの表示を掲示し、見て自分で、できるようになっていくようにする。 □p4cを計画的に行い、学級の一員として安心して自分の思いを伝えることができるようにする。 ★身体計測後は、身長や視力、聴力などを考慮した座席に変更する。 ★体験活動を通して、気付きを伝え合ったり、相談したり、試行錯誤したりする活動を保障し、意欲と興味を高めていくようにする。	
家庭との連携	・学年だより等で、スタートカリキュラムについて伝え、理解を得るようにする。また、子供たちの学校生活の様子を伝え、保護者が安心できるようにする。 ・授業参観での懇談資料で、架け橋期のプログラムに関する内容も伝えていくようにする。		・生活リズムを整えること(早寝・早起き・朝ご飯)やメディアコントロールの必要性を伝え、理解と協力を得る。 ・家庭での学習(宿題を含む)について、自分で目標を決めて継続する大切さを伝え、協力を得る。	
幼保小職員の交流・研修等	◇カリキュラム理解研修会:2回(5歳児担当者・1年生担任) ◇小学校一日体験研修(各校)・情報交換会(3ブロックごと) ■架け橋運営会議		■架け橋運営会議 ◇架け橋プログラム理解研修(オンライン)	
月	4		6	
	5		7	



幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るために

小学校においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすることとされています。

【 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 】

- 1 健康な心と体 2 自立心 3 協同性 4 道徳性・規範意識の芽生え 5 社会生活との関わり
- 6 思考力の芽生え 7 自然との関わり・生命尊重 8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 9 言葉による伝え合い 10 豊かな感性と表現

月 期		8・9	10	11	12	1	2	3	
		小学校1年生 3期				小学校1年生 4期			
ねらい		・友達と関わり合う中で、相手の考えや気付きにも耳を傾けながら自分の考えや思いを表現し、意欲的に生活や学習に取り組もうとする。				・自分や友達の成長に気付き、互いを認め合い、相手の気持ちを考えながら、自分の考えや思いを表現し、自信をもって生活しようとする。			
育 み た い 力	生活をつなぐ	・周囲の人に支えられながら自分が成長してきたことを実感し、意欲的に生活しようとする ・順番やルールを守って生活したり遊んだりしようとする ・自分の衣服や持ち物、学習道具等は自分で管理できるようにし、整理整頓を心がけようとする ・学級の仕事や掃除の必要性を知り、友達と協力しながら最後までやろうとする							
	人をつなぐ	・友達とのトラブルの際に、自分の気持ちをコントロールすることができるようになろうとする ・途中で相手の話に口をはさまずに、話を最後まで聞こうとする ・自然物から遊びを創り出し、ルールやマナーを守りながら、みんなで楽しく遊ぼうとする ・諸感覚を通じた表現など子供らしい表現を大切にしながら、楽しかったことを伝え合おうとする							
	学びをつなぐ	・自分の感じたことや思いを伸び伸びと表現しようとする ・動植物や自然に親しみをもって関わろうとする ・生き物を飼う活動を通して生き物に親しみ、命を大切にしようとする ・集団行動の仕方を知り、安全に運動しようとする							
生活科を中心とした活動・単元デザイン		いきもの のかし 【単元 デザイン ④】 ○むしを さがそう ○むしと なかよく なろう ■ 幼児期や これまでの 経験を思い 起こしながら、 伝え合う	たのしいあきいっぱい 【単元デザイン⑤】 ○こうていで あきをさがそう ○こうえんで あきをさがそう ○はっぱやみで あそぼう ○あきのことを つたえよう ○あきのおもちゃを つくろう ○いっしょにあそぼう ■ 幼児期や日常の経験を思い起こしながら、秋の自然の特徴を探し、色や形、におい、手触りなど、夏の自然の様子との違いに気付いたことを伝え合う ■ 園児の気持ちを想像しながら、つくったおもちゃで園児と一緒に遊ぶために話し合い、準備をする		じぶんで できるよ 【単元デザイン⑥】 ○いえでの せいか つを みつめよう ○じぶんで できる ことをしよう ○これからも つづ けよう		ふゆをたの しもう 【単元デザイン⑦】 ○こうていで ふ ゆをさがそう ○こうえんで ふ ゆをさがそう ○そとであそぼ う ○きせつのこと を つたえよう * ゆきやこおり で あそぼう * むかしからつ たわるあそび を たのしもう		もうすぐ2ねんせい 【単元デザイン⑧】 ○あたらしい1ねんせいを しょうたいしよう ○しょうたいしたことを はなしあおう ○1ねんかんをふりかえろう ○おおきくなったじぶんを みつめよう ■ 入学前や入学直後の気持ちを振り返り、新しい1年生と一緒に何をしたいか、何を伝えたいか話し合う ■ 1年前の自分を思い起こして、新しい1年生の気持ちや立場を想像しながら、新しい1年生との関わり方を決める
		はなをさかせよう ○たねをとろう							
子供の交流等				秋のおもちゃやさん に招待しよう	小学校見学 (親子で) 5・5交流など		新しい1年生を招 待しよう		
★環境の構成		□5歳児等との交流に向け、相手意識をもって様々な準備ができるよう、活動記録や写真を活用した掲示物を工夫し、振り返りができるようにする。 ドキュメンテーションの手法を効果的に活用する。 □虫探しや自然の中から見付けたものなどを気軽に自分たちで調べることができるコーナーを教室に設置する。図鑑等、ICT 端末、収集箱、虫かごなどが考えられるが、子供たちの声も大切にしていこう。 ★行事など共通の目的に向けて試行錯誤しながら話し合ったり、振り返ったりする時間を十分に確保して、達成感や満足感をもてるようにしていこう。				□自分や友達の1年間の成長やよさに気付くことができるように、動画や写真等を提示できるようにする。 ★新しい1年生を招待しようや入学式でのメッセージ等で、新1年生が入学を楽しみにしたり、不安が和らいだりするような活動や内容を工夫できるようにするため、1年前の気持ちを想起させる。 ★1年間の成長を認め、2年生の生活や学習への意欲を高めるようにする。			
家庭との連携		・生活科「じぶんでできるよ」のねらいや学習内容を伝え、家での自分の役割を考え、実際に継続して果たせるように協力をお願いする。 ・交流活動に向けた準備段階の様子や交流活動の様子を伝えたり、学校行事に向け、協力して取り組んでいる様子を伝えたりして、家庭からも称賛してもらえるようにお願いする。				・子供の成長について、自分でまとめた資料(作品)に目を通して家庭でも褒めてもらうようにお願いする。 ・進級に向けて、就寝・起床時刻、家庭での学習の時間を振り返り、自分で決めた時間を目標に生活を送ることができるように協力をお願いする。			
幼保小職員の研修・交流等			■架け橋運営会議	◇小学校一日体験・情報交換会 ◇カリキュラム実践 振り返りの会	■架け橋運営会議	◇保育一日体験・ 情報交換会	■幼保小引継ぎの 会 ◇カリキュラム実践 振り返りの会	■架け橋運営会議	
月		8・9	10	11	12	1	2	3	

福岡中学校区で育てたい子供の姿と学びの連続性

●単
元
計
画
を
中
心
と
し
た
カリ
キュ
ラム

●生
活
科
を
中
心
と
し
た
カリ
キュ
ラム

小学1年

小学2年

小学3年

小学4年

小学5年

小学6年

中学1年

中学2年

中学3年

主体的・対話的で深い学び

(個別最適な学び・協働的な学び)

教科等

・A Iドリルを活用し、自らの学習状況に応じた課題に粘り強く取り組むことができる。
・ペアやグループ等、他者との対話を通して考えを交流させ、認め合いながら学習することができる。

・自らの興味・関心に応じた課題や学習活動を設定・選択し、進んで学習に取り組むことができる。
・教師や児童同士、他校の児童等との関わりや体験を通して多様な考えに触れ、よりよい学習へと発展させることができる。

・各教科において、「主体的」「対話的」「深い学び」の視点を踏まえたテーマのもと、生徒自身が自らの学習を調整し、粘り強く取り組むことができる。また、ICT機器の特性を理解し、多様な教育コンテンツやMEXCBTを課題解決や思考、交流、表現等の場にかかすことができる。
・A Iドリルを積極的に活用し、知識・技能の定着を図る。授業の導入では既習事項の確認、展開では演習問題や発展問題への挑戦、終末では適用問題として取り組む。また、授業だけでなく「学びタイム」でも活用する。

書く視点を整理して、条件に合わせて自分の考えを書く活動を設定する。(小中連携：全国学力・学習状況調査の課題を基にした授業改善の視点)

総合的な学習の時間

福岡小

深谷小

○福岡を知らう

○いろいろな人を知らう(福祉)

○ふるさとのめぐみをいただきます
・米作りの計画を立てよう
・米について調べよう
・収穫祭をしよう

○伝統文化を伝えよう

○白石の産業を知らう

○10年後の自分をみつめよう

○ふるさとのメッセージ
・ふるさとを知らう
・古典芸能に親しもう
・認め合おう

○伝統文化を伝えよう

○リーダーに向けて

●宿泊体験学習に向けた探究的な学習
(長く大切にされてきた蔵王の自然)
●東日本大震災について探り、防災について考える学習

○伝統文化を伝えよう

○福祉の未来を考えよう

●修学旅行に向けた探究的な学習
(白石市・会津若松市の歴史)
●卒業に向けて、これからの自己の生き方を考える学習

○伝統文化を伝えよう

○防災教育と地域の現状と課題

・防災教育を通して、地域との関りを学ぶ。
・共に助け合って生きる共生社会と自己の生き方を考える。
・地域の視点で社会貢献や共生について考え、共生社会の担い手としての意識を高める。

○進路選択に向かって

・職場体験を通して、働くことの大切さを理解する。
・共に助け合って生きる共生社会と自己の生き方を考える。
・自分の将来に夢や希望を抱き志を立て、目的意識を持った生き方を考える。
・高校の先生方からの説明を聞き、進路決定や自己実現のために生かす。

○志の実現を目指して

・将来、自分の歩む道についての展望を持つ。
・自己の個性や能力を生かし、主体的に進路を選択する。
・防災教育を通して、地域の一員として災害時に主体的に行動できる実践力を身に付ける。

協同から協働へ

～人との関りや協働の喜びを実感する～

P4C

人をつなぐ

かかわるものはたす

志教育

・p4cの約束を守り、安心して話せる環境の中で問いに対する考えや思いを伝え合ったり、自分とは異なる意見からも新たな気づきを得たりすることができる。
●元気に過ごし、しっかり学ぶために、ゲームやテレビ、スマホはどのように使えばよいか。

・自分たちで立てた問いについて自分の考えをもち、多様な意見を受け入れ、尊重する姿勢で思いを伝え合うことを通して自らの考えを深めることができる。
●自己の生活習慣を振り返り、問題点を見いだす。自律した自分に近づくために必要なことは何か。

・セーフティを確立することで、よりよい人間関係を築くことができる。
・自分たちの問いを大切に、主体的に学ぶ力、問いを立てる力、探究心を高めることができる。
・互いに顔を見て話すことで、対話的に学ぶ力、コミュニケーション力、深く考える力を高めることができる。
●自律や自己実現を果たすために、メディアコントロールの必要性和難しさ等について、実際の事例や事件等から問いを立てる。

・友達と協力する中で、互いのよさを認め合ったり励まし合ったりすることができる。
・様々な集団の中で自己を生かすことができる。
・夢や目標をもち、将来の生活や仕事について、学習や体験活動を通して考えることができる。
・自己の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びを体験する。

物づくりの学習を通して作成した作品を各小学校へ届け、作品に込めた思いを伝える。
・自己を肯定的に捉え、他者を理解し尊重しようとする。
・よりよい人間関係を築く力や、豊かな社会性を身に付ける。
・人間関係の大切さを理解し、信頼し合える学級作りに努める。
・将来の職業と学習との関わりを理解し、主体的な学ぼうとする。
・学習や体験活動を通して、より良い生き方を求めることができる。
・目標実現に向けて、最後まで粘り強くやり抜こうとする。
・地域の奉仕活動等に積極的に取り組み、自分たちの役割を果たす体験を通して、社会の一員としての自覚を持つ。

自立から自律へ

～主体的に行動し、自分らしさを発揮する～

生活習慣

生活をつなぐ

生活習慣

生活をつなぐ

●「学び・生活のスタンダード」(学校生活・学習・生活の約束)
●生活リズムチェック/「ルルブル」ふれあいウィーク(健康的な生活習慣の確立)
●インターネット安全教室(外部講師による情報・ネットリテラシー教育)

・メディア(ゲーム・スマホ等)の使用を家族で話し合い、使う時間等を決め、コントロールする。
・コントロールして生み出された時間を、家庭学習や家族とのふれあい等に利用する。

●宿泊体験学習(蔵王)

・修学旅行(会津若松)
・福岡中学校区小・小交流会

学 び ノ ー ト 家 庭 学 習 の 手 引 き

福 岡 中 学 校 区 3 校 交 流 会

(福岡中学校説明・授業見学・部活動体験)

福 岡 中 学 校 吹 奏 楽 部 演 奏 披 露

(福岡小/深谷小:学習発表会)